小玉教育長記者会見録

日時/令和３年４月７日（水）
15：00～15：30
場所/別館庁舎７階教育委員会室

【教育長からの話題】
１　令和３年度組織機構改正について
２　「ＩＣＴを活用した教育活動 2021」について
　・ＩＣＴ活用授業モデル　デザイン編について
　・研修プログラムについて
　・特別支援教育について
３　学校における働き方改革「北海道アクション・プラン(第２期)」について

【記者からの質問】
１　子どもたちから性犯罪被害をくみ取る工夫について（朝日新聞）
２　教員不足について（朝日新聞）
３　教頭への支援について（北海道新聞）
４　変異ウイルス対策について（北海道新聞）
５　部活動などの大会の開催について（北海道新聞）
６　わいせつで免許失効となった場合の再取得について（北海道新聞）
７　副知事就任について（日本経済新聞）

【教育長からの話題】

本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。
3 月 24 日に北海道議会第 1 回定例会が終了し、令和 3 年度教育費予算案も提案どおり議決されました。
これらの議論や予算を執行する中で、関係機関・地域の皆様のお知恵や、ご協力をいただきながら本道教育の推進に取り組んでまいります。
それでは、私の方から 3 点ほど話題提供させていただきますが、その前に 4 月 1 日の人事異動で新たに教育部長と学校教育監が着任いたしましたので、2 人を紹介したいと思います。
まず池野部長です。そして、鈴木学校教育監でございます。
池野教育部長と鈴木学校教育監をはじめ、道教委一丸となって引き続き北海道教育を推進してまいります。
それでは話題の１つ目、組織機構改正についてであります。
第 1 回定例会で議論された課題や各種施策等を着実に進めるため、道教委の組織機構改正を行いました。

主な改正内容は７項目お示しておりますが、そのうち３つの項目についてご説明いたします。

まず、２番目の「地域創生の時代を支える人材育成を進めるための体制整備」でございますが、「生涯学習課」を「社会教育課」に改めまして、「地学協働推進係」を設置するとともに、課の中の係を再編して、教育局の社会教育の主査を地学協働の主査に改めました。

道教委の「社会教育課」新設の趣旨は、地域活動の伴走支援を行う人材を育成するとともに、地域と学校の協働活動をプロジェクトとして、喚起・推進するということを狙いとしております。

学びの支援の方向性を、従来の個々の自己実現を目指す生涯学習にとどめないで、地域社会の課題解決や、地域創生にもつなげていく社会教育の取組に重心を置いていくという趣旨でございます。

次に、５番目の項目に「教職員の不祥事防止に向けた体制強化」というのを掲げておりますが、総務課に「不祥事防止対策官」という名称の主幹を設置いたします。

この資料の中にありますように、教職員の不祥事が連続して発生している状況が、全国もそうですが、北海道においても増加傾向にございます。

事後的に懲戒処分をしたり、コンプライアンス、倫理を徹底するという再発防止はもちろんですが、その未然防止に向けた対策の徹底が喫緊の課題と考えております。

道教委では、新たに大学等とも連携をいたしまして、心理学などの専門的知見を取り入れながら、不祥事の背景や要因を分析し、その結果に基づく対策を取りまとめていくとともに、その対策の推進に当たる「不祥事防止対策官」を設置するものです。

主な対策といたしましては、教職員が自身の性格や行動等を深く認識するためのチェックシートを再構築して作成しますとともに、その全体的な傾向の情報を共有する新たなポータルサイトを立ち上げます。

さらには、管理職を対象としたストレスマネジメント研修の実施など、不祥事の再発防止と未然防止、被害者も加害者も作らないという、実効性のある取組を積極的に進めてまいります。

次に令和５年度に本道で開催されるインターハイの準備を円滑に進めるため、「高校総体推進課」を設置いたします。

今年度、知事を会長とした実行委員会を設置し、総合開会式や各競技の具体的な実施計画を策定するなど準備を進めていく予定です。

選手が最高のパフォーマンスを発揮できるよう、運営に万全を期すとともに、全国に本道の魅力を発信し「高校生が輝く大会」を目指していきます。

市町村や観光関係機関などとも連携してオール北海道で準備を進め、たくさんの方々の記憶に残る大会にしたいと思います。

資料の中に示しておりますが、愛称とスローガン、シンボルマーク及び総合ポスター図案を募集しました。

これらは、その最優秀賞に選ばれた作品でございまして、後日正式に決定後、改めて発表したいと思います。

組織機構は以上でございます。

次の話題といたしまして、「ＩＣＴを活用した教育活動２０２１」の取組について、3点ほどご説明します。

初めに「ＩＣＴ活用授業モデル　デザイン編」のご紹介でございます。

各小中学校では新年度から１人１台端末を用いた学習が本格的にスタートいたします。

ハード面の整備は進みましたが教員のＩＣＴ活用スキルに差がみられるところであります。

このため、端末やクラウドを活用した事業モデルを紹介するものでございます。

このポータルサイト自体は昨年の10月に開設し、第1弾として教科ごとのヒント集まとめた「Tips編」というコンテンツを掲載しておりました。

今回新たに「デザイン編」といたしまして授業全体の中で、どういったアプリをどの場面で使うかなどをわかりやすく紹介したサイトを整備しました。

現在、異なる学校の種別や教科など、35のモデルを掲載しております。

教員の皆さんには、こうした資料を参考にしてＩＣＴを効果的に活用し、子どもたちの学びの質を高める授業づくりに向けて実践的指導力を高めていただきたいと思います。

ＩＣＴのもう一つ、2番目でございますが、研修プログラムの話でございます。

昨年度、ＩＣＴ活用に関する内容を取り上げた研修を130回以上実施し、延べ2,500人の教職員が受講しております。

広域分散である本道の特性と働き方改革の視点を踏まえまして、教員が勤務地やその近隣で研修を受けられるようオンライン研修を拡大し、集合日数の削減や移動の負担軽減を図っています。

令和3年度は複数の会場を結ぶオンライン研修や、遠方の講師との質疑応答などを実施するほか、オンラインと対面のベストミックスによる効果的な実施方法を検討して、教員のＩＣＴ活用指導力のアップグレードに努めてまいります。

ＩＣＴの話題の３つ目でございますが、特別支援教育に関するものでございます。

「ばーちゃる文化祭」というものを昨年10月の記者会見でもご紹介しましたが、ＶＲソフトの制作などを手がけております株式会社インフィニットループの協力のもと、道立特別支援学校に在籍する幼児、児童生徒の文化活動の成果とＶＲキャラクターを融合した動画を公開しております。

子どもたちの学習意欲の向上と彼らの芸術・文化的才能を含めた障がいへの理解を深めることを目的としたものです。

道立特別支援学校の９つの学校から演劇や書道パフォーマンスの動画の応募があり、これらの動画をバーチャルキャラクターに扮した生徒が各動画を紹介する構成となっております。

ぐっと胸が熱くなるストーリーもありますので、ぜひたくさんの方に見ていただき、特別支援学校で学ぶ子どもたちを応援していただきたいというふうに思っております。

併せて、昨年度実施いたしました「雪ミク芸術祭」というものがございまして、クリプトン・フューチャー・メディア株式会社の社員の方に、特別支援学校の生徒たちに音声合成ソフト「初音ミク」を活用した楽曲の作成方法などを指導していただく「ミク音部」というクラブ活動を立ち上げ、生徒たちが自作した曲などを公開しておりますので、こちらについてもぜひご覧いただきたいと思います。

話題の３つ目でございますが、学校における働き方改革アクション・プラン（第２期）についてであります。

平成 28 年度に実施した勤務実態調査におきまして、多くの教職員が長時間勤務となっていることが明らかとなったことを踏まえまして、平成 30 年 3 月に 1 か月あたりの時間外勤務を 45 時間以内とする目標を定め、各般の働き方改革の取組を進めてまいりました。

このアクション・プランが令和 2 年度末をもって 3 年間の取組期間が終了いたしましたので、これまでの取組の成果と課題を踏まえまして、より実効性の高い取組となるよう見直しを行い、この度アクション・プラン（第２期）として、先般策定いたしました。

学校における働き方改革の目的は「教員のこれまでの働き方を見直し、自らの授業を磨くとともに、日々の生活の質や教職員人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、子どもたちに対して、効果的な教育活動を行うことができるようになること」、これが本理念でございますが、その理念の実現に向けて各種施策に取り組んでまいります。

プランの概要ですが、取組期間は令和 5 年度まで 3 年間として、時間外在校等時間については 1 ヶ月 45 時間以内、1 年間で 360 時間以内という目標を達成したいと考えております。

真ん中の色分けが３つの視点であり、「個の気づき」、これは教職員自らが働き方を認識していただきたいということ、「チームの対話」、これは学校全体で対話して実践していただきたいという視点。

３つ目が「地域との協働」、これは地域との理解と協力を醸成しながら進めるということ。

この３つの視点を重視して進めてまいります。

また、これらの視点を重視して、６つの項目を掲げて重点的な取組としております。

そして、新たな取組といたしまして、教頭への支援、それから、学校がトラブルに直面した場合の法務的なサポートをするスクールロイヤー制度を導入してまいります。

以上、アクション・プラン（第２期）の概要について説明いたしましたが、このプランに基づきまして教員の健康及び福祉を確保しながら、学校教育の質を高められる環境整備に取り組んでまいります。

以上、主な取組について説明させていただきましたが、学校では教職員の人事異動があり、また、春休みが終わりまして現在は始業式、入学式が行われ新学期が始まったところでございます。

本年度においても、新型コロナウイルス感染症への対策を徹底し、「学びを止めない、心を近づける」教育の推進にしっかり取り組んでまいります。

私からは以上です。

【記者からの質問】

（朝日新聞）

本日の発表の中で教職員の不祥事防止ということがありましたが、最近札幌市でも大きなニュースになった教員のわいせつ行為、性犯罪などの場合、子どもたちからどうくみ取るかというのが重要なポイントであるかと思うのですが、道教委としては何か子どもたちから性犯罪についてくみ取る工夫や調査などがありましたらお聞かせください。

（教育長）
子どもたちからの相談体制については現在もありますので、一人で悩まずに相談していくような相談窓口の周知をこれまで以上に丁寧にやっていきたいと思います。
国の方でも官報の閲覧期間を長くしてより厳しい対応、抑止力を高めようというところがございますが、今回の対策官の主たる目的は、そうなる前にいろいろなストレスなどを抱えている教職員の悩みを吸い上げいち早くカウンセリングにつなげること、また、傾向的にリスクを伴うシチュエーション、例えばラインで生徒と繋がっているとか、空いている教室に２人きりで指導するとか、そういうことがわかってきましたので、そういったことを情報共有して、抑止を図っていくということにあります。
ですから、被害を受けるその子どもたちに寄り添って相談をきちんとさせるということと、そうさせない加害側にアプローチした対策とを両輪で進めていきたいなと思っております。

（朝日新聞）
もう一点なのですが、文科省が教員の不足の調査を始めるということが報じられておりました。
北海道の場合は、特に小学校の先生の不足が顕著だと思うのですが、教育長ご自身は教員が不足している原因はどこにあるとお感じになっているでしょうか。また、道教委として、この教員不足をどういうふうに解消していくかの手立てなど、お考えがありましたらお聞かせください。

（教育長）
特に北海道も小学校の教員の志願倍率などが、1.3 倍ぐらいだったと思うのですけれど、非常に教員の不足を感じております。
非常にやりがいのある仕事ですし、人気のある職業の上位にないわけではないと思うのですが、もっとやりがいを感じてもらえるような工夫が必要だと思っています。
それには、先ほどお伝えしましたが、アクション・プランで働きがいのある職場に変えていくというのも魅力を高める１つだと思います。
それから、昨年から始めていますが、なるべく教育実習をへき地とか小規模校でやってもらいたいという取組で、そういうマッチングも行っておりまして非常に好評いただいております。
つまり、小さいコミュニティの中で子どもたち、それから地域と交流を通して自己有用感、教師のやりがいを感じてもらうということに力点を置いた政策で、市町村の側にしてみると関係人口を作れるということで、首長部局と一体となった取組として進めております。
今年はもっとそれを道外にも広げて、北海道の魅力とセットで教員を志す人たちに届けたいと考えております。

（朝日新聞）
例えば教員採用試験の日程を他の県とずらすとか、会場を増やしたりされるのでしょうか。

（教育長）
そうですね、会場は増やして、東京でも開設したりしています。
日程の方はちょっとまだ聞いていないのですが、工夫できるところはやっていきたいと思います。

（朝日新聞）
文科省からの調査が来たら早速行われるのでしょうか。

（教育長）
そうですね。それと、我々の道内での傾向をいろいろ分析して、もし地域的な事情があれば改善、工夫を図っていきたいと思います。

（朝日新聞）
それは調査結果が出ましたら公表していただくことは可能でしょうか。

（教育長）
大体は今までも公表していると思いますので、そういう方向になるかと思いますが、いずれにしろ何らかの形で、皆さんと共有できるようにします。

（北海道新聞）
今の関連ですけれども、先ほどご紹介のあったアクション・プランの中で、教頭への支援が新しくということでご紹介ありましたけれども、具体的に決まっていることがあればどのような支援をお考えなのかお聞かせいただけますでしょうか。

（教育長）
そうですね、教頭先生が非常に忙しいという実情をどこに行っても聞きます。
教頭に志願する人も少なくなって、ここは教頭というステージに上がる意欲を高めてもらうためにも業務を少し簡素・整理するべきだなというふうに思っております。
ですから、日頃教頭が行っている、例えば早く行って鍵を開けるだとか、最後まで残って閉めるだとか、近くに住んでいるとか、そういった改善をしても支障がないものがあると思いますので、そこの実態を把握しまして全道的に変えていけるものを洗い出して、改善していきたいということを考えています。

（北海道新聞）
コロナ対策の関係で、全国的に変異ウイルスが広がっていて、それまでのウイルスと違って10代の子どもへも感染しやすいと報じられているかと思います。
大阪などは新学期を迎えて、変異ウイルスも増えているということで部活動を規制したりというような動きも出ているかと思うのですが、新学期でまた子どもたちの活動も活発になっておりますが、今後新しく変異ウイルス対策として学校などに呼びかけなどはしていくお考えはありますでしょうか。

（教育長）
今週新学期が始まって教育局も新体制になりましたので、緊急に会議を開きまして私からはコロナ対策で4点ほどお伝えしました。

１つ目には入学式とか、新学期がスタートしますので、授業や行事、部活動などについて今一度感染症防止対策を確認して徹底していただきたいということ。

２つ目に、変異型がでてきて、従来型と比べて感染力が強いという評価もほぼ確定されておりますし、子どもに感染しやすいという見解も示されておりますので、より一層慎重な対応をお願いしたいということをお伝えしています。

それから、いつでもどこの学校でも発生してしまうということは避けられませんので、差別や偏見のないようにもお願いしております。

また、当然のことでございますが、教職員の皆様はやはり住民にとって模範となるべき公務員でございますので、飲食の場などでリスクの高い行動を取って信頼を損ねることのないよう、自らを律して、道民の皆様に模範となるようなルールを守った行動をしていただきたいということです。

そして、今後ですが、クラブ活動とかいろいろなリスクを伴う行動がございますので、改めて校長会やスポーツ関係の団体などと、強く警戒する上でどういったことをお伝えすればいいのか相談し、必要なメッセージを発していきたいと思います。

（北海道新聞）

去年は感染性拡大を受けて春の中体連などいろいろ中止が相次いだかと思いますが、現時点で部活の大会とかについて関係団体と調整などはされているのでしょうか。

（教育長）

現在はあの頃と違い、競技ごとのガイドライン的なものも出てきましたので、それに沿って対策を打ちながらやっていただけるものだと思っていますが、去年も今の時分から増えましたので、改めて競技関係団体とどういったところに力点を置いて進めていただくかをご相談して、必要な対策、警戒すべき徹底項目がございましたら周知したいと思います。

（北海道新聞）

先ほどのわいせつ教員の対策ですが、一度わいせつで教員免許が失効になった人に再取得自体を規制した方がいいんじゃないかという議論があると思うのですが、文科省のほうは職業選択の自由の関係でなかなか難しいという判断のようですが、教育長自身はわいせつで免許失効になった方の再取得についてはどのようなお考えでしょうか。

（教育長）

まずは官報の検索期間を長くしたり、採用関係書類できちんと申告させるっていうような対策が今、国の方で進められております。

もう一つの免許の話は継続的に検討していくということだと思います。

私もそれだけ責任の重い職業であると思いますし、そういったことを抑止するための制度改正ということは必要だろうと思います。

ただ一方で、やはり同じ教員の不足の問題もあって、同じ仲間になった教職員がいろいろなストレスなどを抱えながら、そういう残念な加害事故を起こしてしまうということを防ぎたいというふうに思い

まして、今回こういう組織を作りましたので、両面で、被害者、加害者を作らないという対策を進めていく必要があると思っています。

（日本経済新聞）
先日道庁の人事で副知事に就任するというお話もありましたけれども、１年間教育長として培った経験などを副知事としてどのように生かすかなどをお聞かせいただければと思います。

（教育長）
先月の議会でそういう人事案件についてご同意いただきました。
これからのことについては、しっかりとまた勉強していきたいと思いますが、また来月記者会見があると思いますので、その時にお話ししたいと思います。
今はまだ、この２か月をしっかり、教育長としての仕事をしたいというのが率直な心境でございます。
１年ほどでございましたが、私の思いから緒についた事業や取組がありますので、それもしっかり新しいメンバーと針路を共有し、一歩でも前に進めたいという気持ちでおりますので、しっかり取り組んでいきたいと思います。

この文章については、読みやすいよう、重複した言葉づかい、明らかな言い直しなどを整理して作成しています。

（文責　教育政策課）